

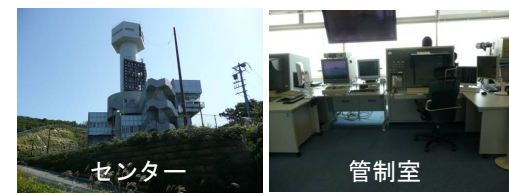
2007年 11月号 Mini-WAN

～三河港湾事務所だより～



○伊勢湾海上交通センター 一般公開

10月21日、渥美半島先端の伊良湖岬にある伊勢湾海上交通センターで、一般公開が行われました。



センター

管制室

当センターは海上保安庁所管の施設で、太平洋と伊勢湾・三河湾をつなぐ伊良湖水道航路を船舶が安全に航行できるように航路状況や気象状況等に関する情報を提供したり、航路の入航制限といった管制業務を行っています。一般公開当日は、巡視船のペーパークラフトコーナーやゲームコーナー等が設けられていた他、管制室の開放も行われました。管制室を訪れた人々は窓から一望できる伊良湖水道の眺めを楽しんだり、室内に設置された各種機器について説明する職員の話に興味深そうに聞いていました。

昼夜を問わず航行する船舶に対応するため、センターの職員は24時間3交替制で勤務しているとの話を聞き、そうした中で海の安全が守られているのだと感じました。

○第53回豊橋まつり

10月20日、21日、踊りやパレードなど多彩なイベントで豊橋市を盛り上げる第53回豊橋祭りが、秋晴れの下開催されました。



パレカの風景

初日の「総おどり」では、豊橋出身の俳優松平健さんの「マツケンサンバII」で有名な振付師の真島茂樹さんが登場し軽快なステップを披露され、豊橋の夜は1万人の市民の熱気に包まれました。

2日目は、パレードとカーニバル大行進を合わせた「ええじゃないか豊橋パレカ」に、およそ4千人が思い思いの衣装で参加し、賑やかなパフォーマンスが繰り広げられました。「ええじゃないかタイム」が始まると、曲に合わせて小さな子供から大人まで一斉に「ええじゃないか！ええじゃないか！」と歌いながら踊りはじめ一層盛り上がり、2日間で約55万人の人出で大賑わいでした。

○三河港特定港指定10周年記念式典

10月25日、ライフポートとよはしで、三河港振興会主催により、三河港特定港10周年記念式典が行われました。



早川 勝 豊橋市長

まず、早川勝三河港振興会長（豊橋市長）より主催者挨拶があり、その後、三河港発展に多大な貢献をされた個人及び地元企業6者に対する功労者表彰が行われました。来賓祝辞では、木俣佳文参議院議員から「三河港のさらなる地域経済発展への貢献、幹線道路整備事業との連携、賑わい・親しみがある港湾空間の整備」を進めるべきと提唱がありました。また、佐原光一中部地方整備局副局長からは「三河港の整備は地域・産業の発展には欠かせない」とした上で、現在までに当事務所が行ってきた神野地区国際ターミナル整備事業やシーブルー事業、今後の事業展望等の説明がありました。式典は、藏野隆夫第四管区海上保安本部海洋情報部長による記念講演「港湾と津波～伊勢湾、三河港の津波シュミレーション～」と続き、盛大に執り行われました。

○第26回半田市民マラソン大会

11月4日、半田市市制70周年記念イベントの1つとして第26回半田市民マラソン大会が行われ、当所より松永・前川係長が参加しました。両名は一般競技部門30代男子5kmにエントリーし、秋空の下、さわやかな汗を流し、無事完走いたしました。松永係長は途中、自分より随分年上の女性ランナーに励まされ、なんとかゴールできた！（最後に女性ランナーのラストスパートについていけませんでした・・・）参加賞に記念Tシャツとミツカンのおむすび山を頂き、体力の衰えを感じざる得ないタイムに少々落胆し家路に着きました。（ちなみに優勝者のタイムは16分台、前川係長は29分台、松永係長は32分台。順位は・・・）



Mini-WANとは
三河港湾事務所従来から発行している季節広報誌「m-wan(エムワン)」では扱うことが難しかった新鮮な話題を中心に情報提供を行い、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 蒲郡で舟運乗船体験
- 半田運河活性化プロジェクト協議会設立総会
- 三河港浚渫（しゅんせつ）工事見学会
- 豊川市立金屋小学校が三河港を見学
- 日本丸が衣浦港に入港
- 川と海のクリーンアップ大作戦
- 伊勢湾海上交通センター一般公開
- 第53回豊橋まつり
- 三河港特定港指定10周年記念式典
- 第26回半田市民マラソン大会



☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

スポーツの秋です。今年は地元豊橋市の市民スポーツ祭（卓球）と豊橋みなとシティマラソンに参加しました。

卓球は昔とった杵柄でちょっとはいいとこまで行けるかという淡い期待を持って参加しましたが、出場者のレベルが予想以上に高く、結果は1セットも取れず敗退。

マラソンは5kmに参加。豊橋総合スポーツ公園を出発し、神野ゴルフ場の脇を通り、六条潟大橋を渡り、神野埠頭で折り返すコースでした。スタートは男女とも11時。号砲とともに上位を狙っていると思われる選手が凄いスピードでダッシュ。自分はマイペースで、と走りましたが、折り返し地点でかなり消耗。六条潟大橋での三河湾からの心地よい追い風と沿道の方々の応援が支えとなり、なんとか完走。しかし、復路でまだ2kmくらい残っている時に、“5kmの優勝者は〇〇さん、記録は15分50秒”という放送が聞こえたときは、“もうゴールした人いるのか”と脱帽でした。

卓球もマラソンも上位に入賞された方々は、普段からの練習の成果が実ったことと思います。“継続は力なり”とつくづく感じました。来年もチャレンジしたいと思います。



「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所
〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049
衣浦港事務所
〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312
WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧ください。 <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp> ★

○蒲郡で舟運乗船体験

10月7日、10日「みなとの賑わい創出担い手育成支援事業」の一貫として、竹島ふ頭からラグーナ蒲郡、西浦温泉までの間で試験舟運が行われました。この週は、がまごおり観光交流ウィークと相まって、たくさん方が蒲郡市を訪れていました。



乗船体験

7日は、竹島ふ頭～ラグーナ蒲郡間で8往復設定されておりましたが、午前中には、のべ定員300名が満席となり、乗船体験者からも、「なかなか船に乗る機会がなく乗れたことが大変嬉しかった。」など、大変人気を博していました。



海王丸と遭遇

10日は、竹島ふ頭～西浦温泉間で舟運が実施されましたが、マンガ漁を体験するといった一風変わった企画が盛り込まれ、参加者は、目的地までの間に普段できない漁業体験をして楽しんでいました。また、偶然海王丸と遭遇するなどちょっとしたサプライズも体験できました。



マンガ漁でとれた魚貝類

○半田運河活性化プロジェクト協議会設立総会

10月10日、クラシティ半田において第1回「温故知多新」半田運河再活性化プロジェクト協議会（会長：瀬口哲夫名古屋立大学大学院教授）が、地元企業、住民、有識者、行政関係者（県、半田市、当事務所）の参画のもと開催しました。

本協議会は、国土交通省港湾局が認定した運河を核とした魅力ある地域づくりを支援する「運河の魅力再発見プロジェクト事業」の事業推進機関として発足しました。

半田市繁栄の舞台となった半田運河の魅力再発見し、市民に親しまれる運河として整備を進めるための取り組み方針や、具体的な方策について今後検討を進めることが確認されました。

また、委員による意見交換では、運河の浄化、案内表示、緑化など魅力あるまちづくりについて活発に話し合われました。

当事務所も協議会と協力して、11月24、25日に屋形船による運河クルーズを試験的に開催します。



協議会の様子

○三河港浚渫（しゅんせつ）工事見学会

10月13日、青空のもと、環境ボランティアサークル「亀の子隊」（小学生とその保護者21人）を招いて三河港浚渫工事の見学会を開催しました。浚渫工事は、三河港内の船舶が安全に航行するために海底の土砂を掘る工事です。掘った海底土砂は、青潮の発生源にもなりうる海底の窪地に埋め、三河湾の環境改善にも役立っています。



浚渫作業の見学



浚渫船で記念撮影

見学会では、工事説明のあと浚渫船から実際に海底の土砂を掘る作業を間近で見ました。水深12mから土砂が掘り出される様子に参加した子供たちの目は釘付けとなっていました。次に、蒲郡沖の土砂投入場所で土運船に積まれた土砂を海底の窪地に落とす模様も見ました。参加した子供の中には、工事の作業船はおろか、はじめて船に乗る子もいました。当日は、運よく船上からスナメリの姿を見ることができると、三河港の姿を陸からではなく海から体感できた意義ある見学会となりました。

○豊川市立金屋小学校5年生が三河港見学

10月16日、豊川市立金屋小学校の5年生62名が当事務所の監督測量船「しおさい」で三河港を見学しました。

この日は社会見学の一環として、港内見学のほか、トヨタ自動車田原工場やポートインフォメーションセンター「カモメリア」を見学し、「日本の工業と貿易」について学習しました。「しおさい」の係留場所に到着すると生徒たちは「かっこいい」とか「やったー」と歓声を上げて喜んでいました。船内では、三河港についての説明を行いました。乗船時のにぎやかさはどこへやら、生徒たちは静かに説明に聞き入り、自動車の輸出について「アメリカに自動車を運ぶのに何日かかるの?」とか、風力発電の風車について「(三河港に)いくつあるの?」などの質問がありました。



港内見学を終えて、「はい、チーズ」

約30分という短い港内見学でしたが、普段触れることのできない海上ツアーを満喫できたのか、どの生徒たちも下船の際には「ありがとうございました」と笑顔で帰って行きました。

○日本丸が衣浦港に入港

10月20日、太平洋の白鳥と呼ばれる帆船日本丸が、半田市制70周年・衣浦港重要港湾指定50周年記念事業として衣浦港の中央ふ頭西岸壁に入港しました。



日本丸

この日には、セイルドリル（帆を全て開く訓練）が行われました。メインマストの高さは約45mもあり、甲板から頂部まで帆が張り終わると一段と大きく見えました。船首には、藍青（らんじょう）と呼ばれる船首像

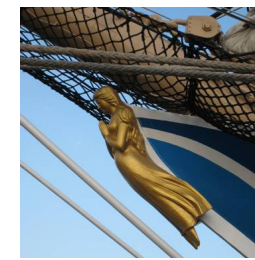


登橋礼（とうしょうれい）の様子

が取り付けられおり、航海の安全をお祈りしていると言われています。

21日には一般公開され、24日まで停泊し、夜はライトアップがされ、また違った日本丸が見ることが出来ました。

24日衣浦港出港の日には、登橋礼（とうしょうれい）が行われました。各帆桁に練習生が並び、全員で「ごきげんよう」と声をそろえ帽子を振る礼です。それが終わると、日本丸は優雅な姿で衣浦港を出港して行きました。



藍青（らんじょう）

○川と海のクリーンアップ大作戦

10月21日、「川と海のクリーンアップ大作戦」の一環として、環境ボランティアサークル「亀の子隊」と共同で田原市渥美西の浜の海浜清掃を行いました。

当日は、風が強く寒い日でしたが、9時から行われた清掃には55名が参加し、1時間の清掃で約230kgのごみを回収しました。回収ごみの中には、自動車のタイヤという大物もありましたが、ほとんどがペットボトル、空き缶、ビニール、発泡スチロール類でした。



海浜清掃の様子



海浜清掃を終えて、記念撮影

今回海浜清掃でお世話になった「亀の子隊」は、毎月定期的に西の浜の海浜清掃を行っており、平成16年には「海の日」海事功労者表彰で「中部地方整備局長賞」を受賞しているボランティア団体です。詳細については、同サークルのホームページにアクセスしてみてください。

（亀の子隊HP：<http://www.kamenoko.org/>）